

PLAZAIMS Vol.17

2011年1月

プラザIMS

埼玉みさと総合リハビリテーション病院 広報誌



Japan
Council
for
Quality
Health
Care

日本医療機能評価機構

(財)日本医療機能評価機構認定病院



病院長だより



明けましておめでとうございます。

2010年4月は2年に一度の診療報酬改定があり、0.19%増で、700億円の増加でした。

内容は急性期病院に特化した内容で、他の医療機関の利益の増加は一部でした。回復期病院では、365日の休みなしリハビリテーション、患者様一日6単位以上のリハビリで点数の上乗せが可能という改定でしたが、多くの病院が実施不可能というものでした。質の評価が2年前に導入されました。その検討はされずに先延ばしとなりました。質の評価には、建物などの環境、診療の過程、リハビリなどの実施内容、そして結果などが評価となるのですが、結果よりは過程で評価されているのが、今のリハビリテーションの評価なのです。

当院では、自宅への復帰率は80%、重症患者の受け入れは40%であり、基本理念である患者様満足を中心にリハビリ医療をおこなっています。在宅への復帰率を向上させるために、365日の休みなしリハビリテーションと患者様一人一人にあったリハビリテーションをこれからも目指してまいります。

病院長 黒木 副武



ごあいさつ



理学療法士
課長 諸持 修

『リハビリテーション(以下リハビリ)』という言葉は広く一般的に知られるようになってきましたが、まだ「訓練」「運動」などの狭義のイメージとして捉えている方が多いようです。本来の意味は「人間らしく生きる権利の回復」であり、様々な活動や補助具などを用いながら、可能な限りの回復を図り、残された能力を最大限に利用していくことで、その人に適した(満足できる)生活を送れるようにすることが、リハビリの目的になります。

当院では、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が数多く在籍しており、患者さまの精神的なサポート役として心理士も在籍しています。「その人らしさを尊重し、ニーズや目的に合わせたリハビリを提供します」をリハビリ部の基本理念として、患者さまのご要望や訴えなどをお伺いしながら、担当の医師・看護師・社会福祉士などと連携を取り合い、患者さまの状態に合わせてより早期の回復や社会復帰が出来るようにサポートしていきます。



理学療法とは

病気、けが、高齢、障害などによって運動機能が低下した状態にある人々に対し、運動機能の改善・維持を目的に運動、温熱、電気など物理的な手段を用いて行われる療法です。

運動療法では主に起きる、座る、立つ、歩くなどの基本的な動作を行うための身体機能の回復や向上を目指して、関節運動や筋力増強運動、各種基本動作練習などを行います。

運動機能が低下すると、歩く・立つ・起き上がる・座るなどの動作が不自由になり、トイレに一人で行けなくなる、着替えができなくなる、外出が出来なくなるなど生活に不便が生じます。これら日常生活動作が行えるようになることで、障害をおっても患者さまが自分らしく生活できるようお手伝いしていきます。

(理学療法士：45名 2010年10月 現在)

★主な練習メニュー★

バランス練習

全ての活動の基本となるバランスの練習を行い、安全で効率的な日常生活を送れるようになる事を目指します。

階段昇降練習

自宅内や外出先の階段にも対応できるよう階段昇降練習を行い、活動範囲の拡大を目指します。



歩行練習

平行棒内歩行、四点杖歩行、T字杖歩行と段階を踏んで安全かつ効率的な移動能力の獲得を目指します。また患者さまに適した装具などの歩行補助具の検討も行います。



トレーニングマシン

各種マシンが揃っており、リハビリ以外の時間での自主トレーニング等で使用します。それにより筋力や活動性の向上、身体の自己管理能力の向上を図っています。リハビリ以外の時間も有効に利用できると、患者さまからも好評です。



床上動作練習

畠上での生活や外出先で椅子がない場合、また万一転倒した場合などに備えて、床への座りこみや、床からの立ち上がり練習を行います。



各種リハビリ器具

患者さまそれぞれに合うよう、様々なリハビリ用の器具をそろえています。患者さまに合わせた杖、装具、車椅子等の検討を行います。また、温熱・電気・水治療法の各種物理療法機器を揃えています。必要に応じて、これらを使用した治療を実施します。



リハビリテーション部のご案内

作業療法とは



作業療法では、食事、排泄、更衣等の日常生活に必要な動作や家事、趣味、仕事などの活動を視点にして退院後の生活を想定したリハビリを行っています。

日常生活を行う上で、ご本人様の能力が十分活かせるようまた、介助者にとっても楽に介助が行えるよう介助指導や福祉用具の選定も行い、困難な部分をどのように工夫していくのかを考えていきます。

(作業療法士：35名 2010年10月 現在)

作業療法部門責任者 大村 美穂

★主な練習メニュー★

トイ・入浴・動作の練習

患者さまの身体状況や自宅環境に合わせて、手摺りの位置・使用する道具（ポータブル・尿器・シャワーチェア・移乗台など）を検討します。その後、動作方法の指導等を行い最終的に自立（介助量の軽減）に至るよう支援をして行きます。



体ばかりでなく、心もいきいきとした生活が送れるように様々な作業活動（手工芸など）を提供します。



<福祉用具の紹介>

【ポータブルトイレ】

夜間の排泄などトイレまでの移動負担を軽減する為に利用します。

【シャワーチェア】

椅子に座って安全に体が洗え、楽に立ち上がることができます。

調理動作の練習

自宅での役割や趣味活動として調理を行います。調理場面では、身体状況・自宅環境に合わせ、道具の種類・使用方法を指導し実用的な動作の獲得を目指して行きます。



運転シミュレーター

自動車の運転の再開を希望されている方に対して専用の検査機器を利用して運転能力を評価しています。



上肢機能練習

手を動かす練習で、個々の身体状況に応じて手の機能回復、又は残存能力を最大限に活かせるように動作練習を行います。



言語療法とは



脳血管障害や事故により、言葉によるコミュニケーションに問題がある患者さまには、言語機能の練習（聴理解練習・表出練習）や発音の練習を行い、周囲の人と円滑にコミュニケーションが行えるように援助します。

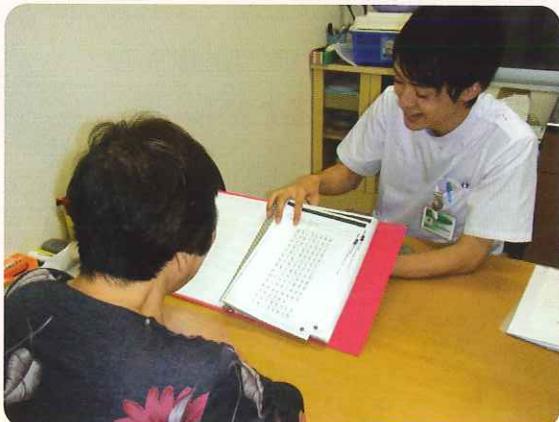
また、食べる事に問題のある患者さまには、噛む、飲み込むといった練習を行い、安全に食事が行えるように援助します。

（言語聴覚士：11名 2010年10月 現在）



高次脳機能練習

注意力・記憶力・行動・感情・遂行機能等に障害を受けた患者さまにはそれぞれの症状に合わせて機能改善に対する直接的な練習を行います。また、生活上の問題を軽減させるための代償手段の検討・獲得を行っていきます。



失語症練習

「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算」が不自由になった患者さまにはコミュニケーション能力の改善を目的とした練習を行います。また、ご家族さまへコミュニケーションの方法のアドバイスや代償手段の検討も行っていきます。

構音・发声練習

口唇や舌など発声発語器官に障害があり呂律が回り難い、声が出難くなった等の患者さまには、口の体操、呼吸・发声練習、苦手な音の発音練習等を行っていきます。また、発話が困難な患者さまには文字盤等の検討も行ってきます。

摂食嚥下練習

食べられない、上手く飲み込めないといった患者さまには、間接的嚥下練習（筋力強化の体操、嚥下反射促進の為のマッサージなど）、直接的嚥下練習（実際に食物・水分を用いた咀嚼・飲み込みの練習）を行っていきます。また、必要に応じて嚥下造影検査（VF）を行い、患者さまに適した食形態や姿勢の検討を行っていきます。



心理療法とは



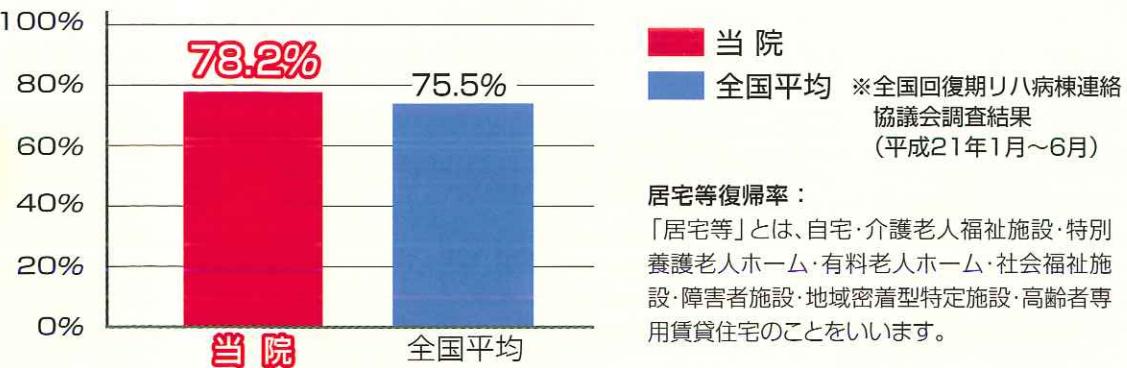
心理士 荻野 寛之

心理療法では、患者さまが安心してリハビリに取り組めるよう、患者さま・ご家族さまの心理的なサポートを行っています。思い通り動かない身体や、慣れない人間関係など、入院生活には様々なストレスが存在し、しばしばそれらがリハビリの支障となる場合があります。当院では、患者さまが不安やストレスに直面したとき、専門の心理士が、カウンセリングや心理療法、リラクセーション法等を用い、問題解決のお手伝いをしています。



「風景構成法」という心理療法で描かれた絵

**平成21年度
居宅等復帰率**



居宅等復帰率：

「居宅等」とは、自宅・介護老人福祉施設・特別養護老人ホーム・有料老人ホーム・社会福祉施設・障害者施設・地域密着型特定施設・高齢者専用賃貸住宅のことをいいます。



■ お車の場合

- ① 東京外かく環状自動車道
「三郷南インターチェンジ出口」より、約5分
- ② 東京外かく環状自動車道
「外環三郷西インターチェンジ出口」より、約15分
- ③ 首都高速6号三郷線、常磐自動車道
「三郷インターチェンジ出口(東)」より、約15分

■ 電車の場合

- ① つくばエクスプレス線「三郷中央駅」より、バスで約5分
東武バス(「金52」金町行き→「新和仲橋」下車・「金54」金町行き→「リハビリ病院入口」下車)
- ② 地下鉄千代田線「金町駅」・京成電鉄金町線「京成金町駅」より、バスで約15分
東武バス(「金52」三郷団地行き→「新和仲橋」下車・「金54」新三郷駅行き→「リハビリ病院入口」下車)
- ③ JR武蔵野線「三郷駅」より、バスで約20分
東武バス(「金52」金町行き→「新和仲橋」下車・「金54」金町行き→「リハビリ病院入口」下車)
- ④ JR常磐線「松戸駅」より、タクシーで約10分

-病院理念- 幸せ・満足に貢献する病院

-基本方針-

- ・高度な医療・看護・リハビリテーションの知識を高め実践します。
- ・チームアプローチに基づいた医療を提供します。
- ・早期の患者様の社会復帰を目指します。

《患者様の権利》

当院では理念と基本方針に基づき、
患者様の権利を尊重いたします。

1. 患者様は、差別されることなく、良質で最善な医療を公平に受ける権利があります。
2. 患者様は、ご自身の病気や治療について十分な説明を受ける権利があります。
3. 患者様は、ご自分が治療方針を選択した予想される結果に関する情報を得る権利があります。
4. 患者様は、治療方針を決定するために、他の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
5. 患者様は、ご自身の医療の内容を知る権利があります。
6. 患者様は、個人情報及びプライバシーの保護を求める権利があります。

病院概要

開院／昭和47年 平成15年12月(新設・増床)
開設者／中村哲也
院長／黒木副武
病床数／回復期リハビリテーション病棟：175床
診療科目／リハビリテーション科、内科、神経内科

主な職員数(常勤)／医師9名 看護職83名 リハビリスタッフ93名
医療ソーシャルワーカー6名
主要設備／マルチスライスCT・X線テレビ診断(VF)
附属施設／総合介護センター
(通所リハビリテーション・居宅介護支援事業所)